



まちづくり ニュース

第6号 (平成30年1月)

まちの将来像の実現に向けて、話し合いを進めています！

大泉学園町地区まちづくり協議会では、『まちの将来像*』を実現するために、大泉学園町地区を「大泉学園通り沿道地区」「補助230号線沿道地区」「住宅地区」の3地区に分けて、まちづくりの具体的な内容や手法について検討しています。

*「まちの将来像」については「まちづくりニュース第4号(平成29年5月発行)」をご参照ください。

前回のニュース第5号(平成29年10月)では、「補助230号線沿道地区」について話合っている内容(H29.8,第10回協議会)をご紹介しました。

今回は「住宅地区(H29.10,第11回協議会)」と「大泉学園通り沿道地区(H29.12,第12回協議会)」について、話合っている内容をご紹介します(裏面をご参照ください)。

=まちづくり協議会で話し合っていること =

まちづくりの内容や手法について、3つの地区ごとに検討しています

補助230号線沿道地区

『歩道に面した店舗、サービス施設の立地と中低層の住宅により活力ある沿道市街地を目指す』ための取組みについて話合っています

第10回協議会で検討
(ニュース第5号参照)

住宅地区

『風致地区のみどり豊かな街並みと閑静な住環境を継承した低層住宅地を目指す』ための取組みについて話合っています

第11回協議会で検討
(意見の概要は裏面)

大泉学園通り沿道地区

『桜をシンボルとしたみどり豊かな街並みの中に魅力ある店舗や生活サービス施設等が連続する商店街を目指す』ための取組みについて話合っています

第12回協議会で検討
(意見の概要は裏面)

とりまとめ

第13回協議会からは、これまでの話し合いの成果をとりまとめます。
まとめ次第、地区の皆さまにご報告します。



大泉学園町地区のまちづくりに関する問い合わせ先

練馬区 都市整備部 大江戸線延伸推進課 まちづくり担当

【電話】03-5984-1459 【FAX】03-5984-1226 【電子メール】ENSHIN@city.nerima.tokyo.jp



「住宅地区」について

第11回まちづくり協議会（H29.10.12）では、「住宅地区」について話し合いました。
これまでの協議会の意見を踏まえ、以下の3つの視点に着眼し、意見を出し合いました。

《意見の一部を抜粋》

目標

①ゆとりと落ち着きある住環境を守りたい

- 最低敷地面積を定めた方が敷地が小さく分割されないの、品格が漂う洗練された住宅が立ち並び、大泉学園町の良さが守れるのではないかと。
- 新駅ができた際に、土地の価格が上昇することを想定すると、敷地の最低面積を大きく定めてしまった場合に、子育て世帯が購入しやすい価格の住宅が供給されず、若い世代が増えないのではないかと。

②みどり豊かな街並みをつくりたい

- 道路から見えるみどりを増やすという考え方がよいのではないかと。
- 樹木の枝のせん定や落ち葉などの管理が負担になる。
- 子どもや高齢者が一緒に過ごせる大きい公園が必要ではないかと。
- 農地を買取り、公園を整備することができないかと。

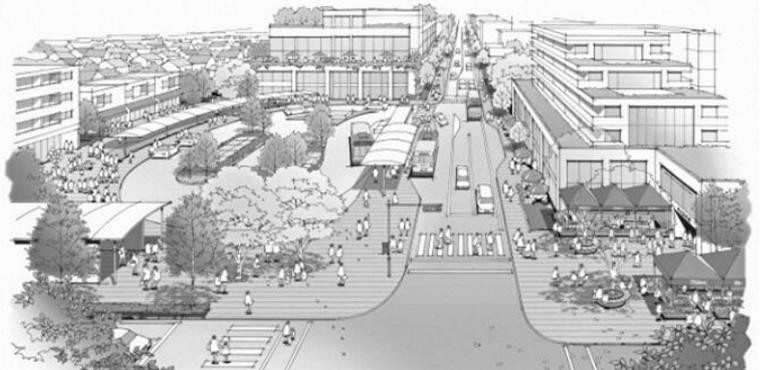
③安全・安心な交通環境をつくりたい

- 隅切りの整備を推進して、交差点の安全確保をすることが必要ではないかと。
- 垣さくや塀については、地震時に倒れることが考えられるので、高さを低くする等のルールを決める必要があるのではないかと。

「大泉学園通り沿道地区」について

第12回まちづくり協議会（H29.12.14）では、「大泉学園通り沿道地区」について話し合いました。

これまでの協議会の意見を踏まえ、以下の4つの視点に着眼し、意見を出し合いました。



《意見の一部を抜粋》

目標

①賑わいと活気ある商店街をつくりたい

- 良好な住宅地と調和した駅前地区としていくためには、パチンコ屋と葬祭場は出店できないようにしたほうがよい。
- 人の流れが新駅から既存商店街に広がるようになるとうい。

②街並みに配慮して土地の有効利用を進めたい

- 230号線沿道よりも高い建物（7・8階建程度）は許容してよい。
- 歩行者の視界に入りやすい場所の工夫（道路沿いの壁面後退や店舗前のみどりを増やす等）をすることが重要ではないかと。

③ゆったり歩ける歩行環境をつくりたい

- 現在の大泉学園通りの歩道は狭いので、車椅子もゆったりと通れるようにできないかと。
- 新駅ができると多くの人が大泉学園通りを通行するので、自転車も歩行者も安全に通行できるようにすべきではないかと。

④うるおいある環境をつくりたい

- 大泉学園通り沿いのみどりが増えたら、美しい綺麗な景観になるだろう。
- 小さい敷地の中にみどりを整備することを規定すると、建物を建築する上で制約が厳しすぎるのではないかと。